



田谷の風

第47号

発行日:令和5年1月10日(四半期発行)
介護老人保健施設ケアポート・田谷機関紙
〒244-0844 横浜市栄区田谷町 2030-3
TEL:045-858-5882
発行責任者:佐貫恵吉



幸多き年でありますように



皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

はじめまして

昨年十月一日より中西先生の後任で施設長に就任した佐貫恵吉(さぬきけいきち)です。大船は馴染みのある街で、実は平成元年から三十年弱の間内科外科クリニックを開業していました。今でも鎌倉市医師会の会員資格を持っています。その前は外科の勤務医、クリニックを閉院した後は他の老健に勤めていました。



さて、一年の計は元旦にあり、と申します。新年にあたり考えていることを書くことにします。これまでの外科医・開業医・老健管理医師の経験をここケアポート・田谷で生かせるかどうか、入職して以来、とくに老健に勤める多職種、介護士、理学療法士、作業療法士、栄養士、薬剤師、ケアマネージャー、相談員、そして看護師など多くの力を結集し、利用者の皆さんが少しでも健康で楽な生活を送れるように、そのために私は何ができるのか、を模索してきました。

施設でぶつかった問題を共有し、自分たちの意見を出し合い解決に向けて努力しなければなりません。「共有」するだけでは半分にとどまります。各自の経験に基づく意見を出さなければ次が出てきません。これが大事なことです。

ご承知のようにコロナ禍が始まって四年目になろうとしています。未だに多くのお年寄りがなくなっています。私たちは老人施設に働くものとして気をゆるめることなく勤めています。いろんなことを経験し学習してきました。もちろん皆さんの意見も取り入れ、これが現時点では最良の策と考え実施しています。ご利用者の皆さんにとってご家族との面会は大事なことです。感染状況に応じて制限を工夫しております。ご理解ください。

まだまだ先が見えたとは言えませんが、必ず終わるものと信じております。皆さんもお元気で日々をお過ごしください。

施設長 佐貫恵吉



食欲の秋！ 食欲と言えば 焼き芋 & 芋煮！

今年も焼き芋レクを10月26日に行いました。職員が朝早くからバーベキューコンロに炭を入れ、火を起し準備を進めました。今回の芋はなめらかで甘味も強いシルクスイートを用意。芋は先に蒸しておき、蒸した芋をバーベキューコンロの上に置き、焼き目を付けて作りました。芋の形態は、焼き目を付

けた芋と、芋を潰したマッシュ。潰した芋に牛乳とバターを混ぜペースト状にした三種類を用意し、ご利用者に合わせ提供させて頂きました。

いざ焼き芋の配膳を行うと、皆さま、とても美味しそうに召し上がっておられました。一部のご利用者は「もっと欲しい！」と言われ、2個目を召し上がったりと、職員・ご利用者共に楽しい時間を過ごしました。ご利用者の声を聞くと「焼き芋なんて久しぶりに食べたわ！」、「なんか焼き芋食べたらか心も体も凄く温まるわね！」等喜びの声が聞かれ、私達も嬉しくなり、又励まされた気持ちにもなりました。

この2～3年、コロナ禍の影響でなかなか施設行事の開催が厳しい状況でした。感染対策等色々検討しながら、今回の焼き芋レク開催に向けて職員一同頑張っておりました。ご利用者の笑顔や感謝の言葉をいただくと無事に開催出来た事が嬉しく、またホッとした気持ちにもなりました。

来年以降コロナ禍が落ち着き、今年以上に盛り上がる焼き芋レクが開催出来ることを祈っています。

そして11月19日には毎年行っている秋の根菜シリーズ第二弾！具沢山の芋煮を提供させて頂きました。

手慣れた厨房・リハスタッフ・看護師が協力して朝早くから仕込みます。相撲部屋のちゃんこ鍋を想像させる大きな鍋に、人参・大根・里芋・長ネギ・豚等を入れ煮込んでいきます。コトコト煮込むこと2時間、今年もう美味たっぷりに出来上がりました。

荒天となれば室内で召し上がっていただくことになってしまうのですが、当日は誰のお陰か雲一つない(雨男と呼ばれる私も当日おりましたが)少し動けば汗ばむぐらいのいい陽気。煮炊き場兼食事会場とした正面入り口横には椅子とスチールの長いテーブルをセッティング。ご利用者の食事形態に合わせて、常食・一口大・一口大とろみ付き・キザミ・キザミとろみ付き・ミキサーと用意し、9時半過ぎに準備OK。ちなみに芋煮は「芋煮会」として、里芋の収穫時期である10月頃に山形県、宮城県等の東北地方で若者グループなどが河川敷で行っているようです。関東ではバーベキューがこれに当てはまります。

総勢100名程になるご利用者を、午前の2時間以内にご参加いただくとなると、折角の屋外の雰囲気を楽しみながら召し上がっていただくことは出来ないのですが、それでも1階の会場ではたくさんの笑顔が見られました。いつもはなかなか食事が進まないご利用者もパクパク召し上がっているのを見ると、食の大切さを再認識することが出来ました。

食のイベントにおいていつも食欲旺盛なご利用者の方は、お替りも出来たのでストレス緩和に少しお役に立てたのではないのでしょうか？私もお利用者と一緒にいただきましたが、「旨い！！」

ご利用者の見守りを忘れそうになるぐらい、本当に美味しかったです。イベント終了時に職務の関係でご利用者の感想があまり聞けなかったのが残念ですが、事故なく提供できたことにホッとしています。

感染症のこともあり外出は難しくとも、少しでも景色の良い場所で美味しい物を食べて気分転換になるように、安全には十分注意しながら引き続き食の行事・イベントを企画していきます。次の食の行事は年明け餅つきを予定しております。楽しみになさって下さい！

2階介護副主任 中山泉 2階介護 高木大策 塚田和孝





メリークリスマス！



今年も早いもので、あと1週間程で1年が終わりになります。ロシアによるウクライナ侵攻、記録的な円安、元首相への銃撃事件など、まあ2022年は暗いニュースが多い年でした。

去る12月24日にクリスマス会を開催しました。ここ数年、コロナ禍の関係で行事も思うように中々できず、久しぶりの開催、しかも2階3階合同のクリスマス会と相成ったのでございます。会が始まる前からご利用者の皆様は少しソワソワとして、楽しみにしているような様子が見受けられました。会を企画、実行する職員といたしましては、こういった様子は遣り甲斐を感じますし、励みにもなります。まあ、プレッシャーも少し感じるのですが(笑)。



さて、最初は箱の中身を当てるゲームを行いました。箱の中にはボールやスポンジといった分かり易い物を入れます。ご利用者は中身が見えない状態で、手を箱の中に入れ、手探りで触って中身を言い当てるといものです。これだけだと他の見学しているご利用者はつまらないので、見学者だけが中身が見えるように箱の前方に穴を開けました。



いざやってみると、すぐに中身を言い当ててご利用者がいる一方で、どうしても分からない人もいます。そこで見学者の出番です。

見学者は答えを言わないよう注意しながら、中身に関するヒントや中身の名称の最初の文字を言ってもらいました。職員の助けも借りながら皆さん無事中身を言い当てることができました。ちょっと簡単すぎたかな、こういうのは少し難しいぐらいがちょうどいい塩梅なのかもしれません。



ゲームの後は皆さまで「きよこの夜」、「ジングルベル」を歌いました。伴奏はギターや歌の得意な看護課長です。ご利用者はうまく歌えていました。皆さんいい表情でした。

僕は司会担当だったのですが、他のクリスマス担当の職員の助けを借りながら、なんとか役目をこなすことが出来ました。普段、あまり喋らない性格なので、3か月分くらいの会話をした気分です(笑)。

ご利用者皆様の笑顔を見て、早くコロナ禍が終息して何の制限もない日常が来ることを願うと同時に、また来年も楽しいクリスマス会になったらいいなと思いました。

3階介護副主任 齋藤克



明けましておめでとうございます。

近所のスーパーにある、鮮魚コーナーの一角が黄色に染まりました。昨年の11月初旬の出来事です。「どういうことだ？」と思われるでしょう。正体は、早くもショーケースいっぱい並べられた数の子たちです。その後も、クリスマスやお正月。恵方巻き。バレンタインデーの商品までもが登場し始めました。ここ数年、イベントの食材が早期から受注を開始したり、店頭に並び始めたりしています。



動きの早さ以外にも、様々なタイプの料理やおせちが販売されている印象を受けています。和洋中の味付け。塩分控えめや、噛んだり飲み込んだりしやすい工夫がされているもの。キャラクター物や子ども向けの商品。ペット用や食物アレルギー対応となっている物。おひとり様用。スイーツ。おつまみ。更には肉づくし...など。美味しさのみな

らず、身体や環境への配慮がされている商品が増えていることは有難いです。

当施設においても元旦の昼食に、伝統的なものを大切にしながら食べやすく、視覚的にも楽しめるような食材を取り入れた“おせちのお弁当”を提供しました。

未だに続く新型コロナウイルス。そんな状況においても季節は巡ります。日々の食事から季節感や楽しみを感じ取っていただき、皆さまの健やかな生活に繋げることができるよう、栄養科と厨房スタッフで努めていきたいと思ひます。今年もよろしくお願い致します。

栄養科 三堀道子



ミニクリスマス会と 卯

12月には和風月名で師走です。師が走ると書いて師走なわけですが、師と呼ばれる要素には縁遠い私も、年末年始には御多分に洩れず公私共に走り抜けるように忙しい日々を過ごしています。その一部として、毎年恒例となるクリスマス会と干支の壁画作りが名を連ねています。コロナ禍の前は、クリスマス“週間”として一年の締めとなるイベントを行っていましたが、この3年は

余儀なく縮小されました。今年は24日に、一年の感謝の気持ちを込めてクリスマス会を開催しました。内容は、クイズの解答者である職員たちの中から、ご利用者が正解者を当てる“クイズダービー”形式のゲームと、豪華景品が当たる？ビンゴゲームを行いました。ゲームで楽しめる皆さんの表情や、ビンゴの景品(クリスマスプレゼント)を受け取られた時の笑顔が、私達職員にとって、最高のクリスマスプレゼントになりました。



クリスマスが終わると1週間足らずで新年を迎えます。来年の干支はウサギです。毎年玄関に飾る干支の壁画は、10月後半から準備を進めていますが、なぜか毎年毎年、年末ギリギリまで制作に取り組んでいます。特に今年は2日前まで全く形を成しておらず、最後まで先が見えない状況でした(笑)。利用者様だけでなく、職員も総力戦で取り組み営業最終日に何とか完成に漕ぎつけました。

今回の作品は塗り絵を主体にした壁画となっております。日々ご利用



目にとめて頂けると嬉しく思ひます。2023年も皆さんにとって穏やかな年となりますようにお祈りいたします。

通所介護副主任 小川真紀

